

幕別町

農村ホームステイ

幕別町では、グリーンツーリズム(自然との共生を前提とした旅)に関する事業として、平成24年度から農村ホームステイ事業を実施しています。

平成24年7月には、受入のための協議会「まくべつ稔りの里」(佐藤悦啓会長 現会員数81農業者)が設立され、平成24年度に、大阪の府立高校3校と道内中学校1校、平成25年度には大阪の府立高校3校の、合計で271名の高校生を受入しました。



▼受け入れ農家の皆さんと集合写真(大阪府立長尾高校)



農村ホームステイとは

農村ホームステイ事業とは、都会の子どもたちが、農村での農業体験や生活体験を通じて、命の糧である食に対する理解を育み、農業者との交流による地域への愛着を深め、応援団となっていたり、それを目的とした活動で、十勝全域で行われています。

ホームステイ受入は

受入家庭には、2〜4名の高校生が宿泊し、農作業や食事の用意のお手伝い、家族との食事など、農村での生活を体験します。

農業体験は、受入農業者の形態(畑作、酪農、畜産等)によって様々で、基本的にその内容は各農業者にお任せしています。中には、酪農家のお宅で、朝4時頃から起きて牛舎の清掃や搾乳作業をすることなどもあり、生産現

場の実態を肌で感じる機会に繋がっています。

また、核家族化の進んでいる都会と違い、3世代、4世代で生活されている農業者の方々との交流により、お別れの時には涙する生徒の様子も見られました。

農に対する理解を深める

昨年の実施後、受入農業者からのアンケートでは、初めて会う子どもたちの受入に戸惑う反面、「都会に住む子どもたちに農業の現状を知ってもらおう良い機会となった」「自家製のいもを使った手料理など、食育に繋がったのでは」「幕別町を知ってもらおうことができた」といった感想をいただきました。

この活動によって、食の安心、安全への取り組みについての理解を深めていただくことは大切なことだと考え、今後も農業者、関係団体との連携を深めながら進めていきます。



▶岩谷農場で牛にミルクをあげる(大阪府立守口東高校)



▶伊東農場で牛とふれあう(大阪府立渋谷高校)